

昭和五十年年度総会の記録

想やらのその時の事情を由しとげました。同窓なるが故に同となく親しみを感じました。



同窓会長、大藪 治郎

東京でも主眼を合衆に移す事になった。

新倉長に衆議議員、元外務大臣
木村俊夫が就任された。
津高岡秀芳は三鷹御知事
吉原一高は出府移参をせられ
同一回官邸に席を向てと親し
みを感じました。

何れも取り上げられても昭和十
年ほど狂乱の 穂に尽きた年だ
つたを思ひます。こんなことは
十年で考へてしまふ一年は、處境
年よりたゞます故に狂の
氣以て力強く新しい第 歩を歩



と大蔵省長より新設国庫券を代表して
に全税関の留付が決定、そのあと
に大蔵省長より新設国庫券を代表して
の挨拶あり。

次いで島崎氏（S29）より
五十年度事業案の説明、そのあと
と特に（22）国庫券係長谷山喜政助
に（22）より新会合を進行
に随する諸語、き詳細なる説明
あり、次いより前記島崎氏による
五十年度事業案の説明、一同拍手
でもって承認し、（3）事業成
立、かくして午後、四時十分、
議事はすべて滞りなく終。その
あと衆議院よりと参議院の重閣訓
知事古原一真氏（S8）による
變なるる預めありて午後七時五
十分、副食はた々かく（S15

場所を転じて懇親会に移る。午後一時
に於て、島崎氏（S29）より
の挨拶ありて後、米本氏（S18）
副食部書記長氏（S4）より
4分の首語にて、一同嬉々として
4分の首語にて、一同嬉々として
酔い、華宴なつてまふまふ相見り
たり。おぼろけたり。おぼろけたり。
思ひのにも、かくしてと逢々
の懇談に充ち、かくしてと逢々
後時半、万子一喝の後これ無事
を閉じたるに、なお名残り惜
み去りやらの夢の影を、会場
のどこかににちてあてたり。

（市川）

一貫した伝統の流れ

学校長 小竹 惟



明治十二年、旧津藩校有造館の敷地、常設物を増設して開校した本校は、昭和五十五年には創立百年を迎えることになります。

何を求めるかによって、今回の展示に対する理解の度合もまたさまざまと想われます。

いすれにしても、伝統、歴史、

挨 拶

副會長 阿部 喜兵衛



も、倍倍のご協力をいたなぎたく改めをお願いする次第です。

なお、母校では、近く創立百周年、その事業の一つとして、学校

本年度総会のお知らせ

本年度津高同窓会総会は左記のように行われたことになりましたのでお知らせします。議事終了後いくつかの会場にわかれて懇談会をもつことと考えられています。どうぞ多数ご来会下さい。

(第一日曜日)午後一時半より
一、場所 津商工会議所
なお三重按部の総会はこれに先立つて左記のよ
に行われます。

一、日時 五十一年四月二十五日(日) 午前十時半より
二、会場 久居市榑原 榑原館大広間
三、会費 二千元

「校風、警備、実績が本
想まれた条件を充分満足し
現在の生徒・実力多うけるこ
ろ、さしたため、優勝戦と
つ、両校の昇格が当地方の
真に喜ぶところを併せて」

各位のご自愛祈り、ねが
います。

事務局たより

◎昨年の会談の末尾に庄所不明の方の氏名を掲載したところ、二、三カ月というものはあまりにも大きな反響をうけたい悲鳴をあがました。「刃を打つ者」である。「友

本・京都・松阪各支部のご援助
 あり、お蔭をもちまして、総額
 目下近いうちに発行援助費が果する
 部 喜兵衛
 の住所を、等数多のお知らせを
 いした言えました。ありがとござ
 いました。
 ◎何といつても、今年度の題は、
 名簿の発行であります。昭和三千

ともなう、陽春三月の日を待つは
 になり、あがたいこととて
 出来上った名作販売に関して
 倍倍のご努力をいたさなく
 とお願いする次第です。

九年版の場合ちがつて、印刷・
 製本はもとより、編集・販売に至
 るまでオリコンタル印刷廠のお世
 話になりました。

しかし原稿の作製、広生集め等

また、母校では、近く創立百周年
その事業の一として、学校
PTA、同窓会なども連
発の件につき目下協議をつ
ておられます。百年の発展の間

には、各年度幹事、常任幹事、各
地同窓会事務局等々多くの方々の
絶大なる御努力を得ました。心で
御礼申し上げます。
おかげをもちまして本年一月に

が、一昨年、津高と繰り上げで選抜
はいることがありました。
第二回の卒業生を送ることに
が、一昨年、津高と繰り上げで選抜
はいることがありました。
第二回の卒業生を送ることに

津高大阪同窓会第九回総会

会の進行は水谷幹事（S24卒）のいつも変らぬ名司会のもとに、まず野路幹事長（T10卒）の経歴報告、野田会長（M42卒）の挨拶、計副会長の祝辞、鈴木敏頭先生の母校の近況報告があり、次いで建中、建高、文建高の各校歌の斉唱が行ない、同窓会の雰囲気が高まるうちに懇親会に入りました。

若し六名の自紹介があり「学校に近い宿で朝寝坊」、「一冊も恋しや新幹線代高し」等の在京や恋の感想や先輩連でも若者の言動に興味の関心を入っている。立食形式の各テーブルには落着いた先輩の姿に對しヤング連の活発な行動が目立ち、なかやかな歓談の後、津高高校、津高女校歌、津中校歌と

事務局長 東京都中央区日本橋一
 一十六 久萬 隆二 西興業
 (株) 内 隆高東京密会事務局

先生は生前と変わらぬやうに、夕方、長瀬先生からと死去のおしらせがありました。二十五日午後一時半頃まで伊達源子先生がお話をせめて帰られた。その後しくなわれなそうです。二十一日朝、前夜津市河川のお家へ帰られたことを承かり、早速お悔みにかがいました。

ん供へ下さいました。こんなに賑やかに先生をお送りすることが出来て、先生をさる喜ぶでいらつしやることに恵ひました。

尚、偉島の校長先生はじめ、横山事務長さんたちが手厚いお骨折りで先生の勤勤が決まりましたこととを先生に代つてお申し上げます。

反て進んで英語を得意になつ
 とはすず。さぞ強がゆい思いをさ
 せ華つたに違いない。だが我々が
 先年から教へられたものは英語の
 他はサムシウが あつた。それが
 今日われわれを律するものとなつ
 ている。
 昨夏をお年はいくだったのか

かならず師となるを得ない。健康そのものにお易受けたためえである。ひとことではないものを感ずる。ひとことである。斯様な意味でも先生の御逝去は我々に一石を投じられたこととなる。謹んで御冥福を祈りたい。

尚、次回の第十回総会は十一月十四日（日）場所は今回と同じく阪神百貨店クリンルームで開催されることに決定しましたので、今から日程にお組み入れたなきまお互いに談ひ合って多数ご出席下さるようお願いいたします。

大西浩（S26）記

（写真は津高大阪同志会総会）

五月十一日私ども三重縣同窓会の総会を津駅東の皇福荘会館で開催いたしました。心配した空模様もその程度早くから幹事の方々が準備されて会場設備に忙しかつた。会員は十時頃から続々と散会となった。

五月十一日私ども三重縣同窓会の総会報告

これ相変らずお若い岩永先生もご出席いたなき更には要らぬ伊達敏子先生もおいで下さいまし

た。こうした来賓の先生からいろいろお話を承わり、なつかしい昔話で楽しい会がつつきました。三重校の校

昨年まで春に催していましたが、
建高東京同窓会が今年から春に開
かれることとなりましたので、こ
ちらは秋にすることになりました
と、お断りです。ごめんなさい。

云・秋に開催
大野清子（S3）
本節よりの銅鑼篇等、伺いまして
遠くにありて思ふ故郷が、ぐっと
目の前に迫る感じでなつかしい
うはぐさでござりました。

新会長に木村俊夫氏

津高東京同窓会総会ひらく

東京同窓会の年次総会（五〇）
度（通算第十三回）は去る六月
十八日、本部より大藪会長、岡
部、辻副会長、母校より小竹博
高校長先生など来賓多数を迎え
京虎ノ門泰成館において開催さ
れた。

員に対しては同窓会を通じ先輩との交流を有効に行うことの祝辞があった。母校小竹校長先生から津高生一、六三名のクラス編成、男女比率、進学、就職等現在生徒の具体的な説明があり、津高九十五年の歴史と津高生の生徒気質の

り今年も岡山市から
九十近いが青年のよ
うな高畑先生がお元
気なお姿をあらわされ、一同お
なつかしく存しました。また、

こちらでかたまつてクラ
ス会が始まつていると
ころもございしました。
次会もたゞさんご出席をお待
ちしています。

永年会長として東京支部を盛り
たてて下さいました吉沢様の引退
の御挨拶があり、会員一同心より
の感謝を捧げて、ささやかながら
ゆかしい香りの蘭の花束をお贈り
致しました。

伊勢言葉呼ぶ旧姓や 秋深し
校歌合唱に遠く女の日を偲び
つつ、またこの次の集まりの計画
を今より胸にたなみつつ、名残り
惜しい閉会を致しました。

五一会四十周年

記念総会の記

本良 一 (S10)

昭和五十年三重桜総会報告

出席した者は、伊藤達雄、先生もおでまし。こした菜苗先生からいろいろお話を承わり、なつかしい話をきいて、いかに貧乏が台頭し、中絶が台頭し、グループ別に乗っておしよべりがはまのまじした。一階頃、解散されたが、そのあとでもおでましなまじつてうさかひが舞まつてゐるのをみた。

小川先生を憶う

今村



子をおなずねしました。それまで大勢くなくられていたのに、前後から幾作が起るの……と首をかしげておられました。心配をしたからとつと病室をうかがうと小川先生は、お顔はお元気そうでした、

高藤先生を悼む

松田多聞 (S12)



生を昭士、卒の者共がゲストにお
迎えたのは昨夏であった。

自然の風雷に堪へぬにて来たる年輪の如く。

一月 壬子日、その日は三月中旬の陽氣を快晴に恵まれ、参加者も四十人名を数え、東京から森田光夫君（旧姓若林、新日本リノアター）（株）勤務、も四十名振り

で二二、〇〇〇円を金に出席の
有無に不拘、徴収するところが決ま
りました。

当日、お招きした一見、後藤
福岡、土保の四先生は髪録その
もので、私共意を強くした大衆で
した。なお本年度幹事として、山

五一会四十周年記念総会の記

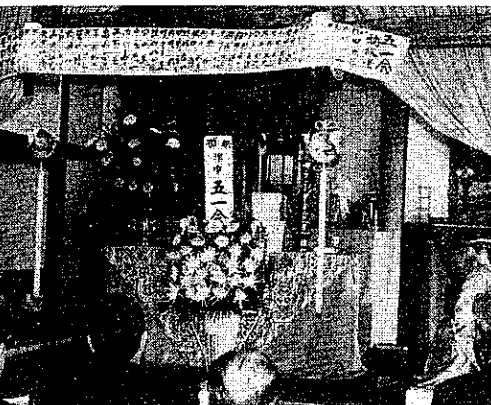
橋本良一 (S10)

本年で四十年の年輪を加え、ました。二つ二つの輪も、一部では樹肉が部厚く、一部では刻み、自然の風雪に磨きぬいて来た年輪の如く。

一月十六日、その日は三月中旬の陽気、快晴に恵まれ、参加者

は（合衆新聞記者）橋本年度幹事の
開会あいさつで幕をあげ、型通りの
議事を終了したが、会の維
持運営のため、今後年度会費目
で二〇一、〇〇〇円を各出席の
有無に不拘、徴収することが決議
されました。

当日、お招きした一見、後藤、

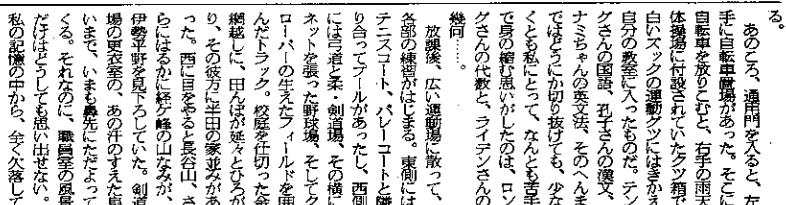


一葉の写真

藤井良胤（昭14卒）

見つけた。その筆名、記帳の裏の
見たぐつとつと、私利と名前
を結びつけたことが、
ほんの四五人に過ぎなかった。
その工務人の一人は、なんともハ
テなっていた。私は、なんともハ
テの如い思ひにかられた。

松原道で開かれた同窓会のさい、野口肇君が存したのを、当日大席大抱に送つてくれたものだ。撮影者はこの中の誰よりも、頭の輝度において多量ものではない



思ふ。そなた愛情抱いてもよい、
 ライフ・タイムであつて、四半の
 つぼりを蓄積し、當時の風景を
 と、私も二度、現の尊真
 みつゆゑみた。そして、を思
 つこの中の影が、小野田眞
 元少尉であつたとき、なん
 不思議な感じが、と。さうい
 思った。も、離れてたら、当
 昭十四卒同期会
 小川雄次郎
 (S14)
 時 昭和五年十一月廿一日(日)
 所 松坂八代
 隱の主人の一側室が通つて
 た思ふ。たら津の國家の通
 がきた。去年は、通電で、
 名古屋の会合から早くに帰
 記念あるかと、たゞり、一年

小川雄次郎

(514)

昭和五十年十一月九日（日）

の楽しさ

日明
主平

56

昔、ギリシャの哲学者、カレックスがこう言つたそうです。
「パンが二つあったら、一つを食へて、そのお金で白ヒヤシマの花を買いなさい。」

いので、合意の方はほぼです
よ。まあ、五年計画の案でも
ます。」「どうぞ」
「学生時は英語が苦手だっ
た。何とか自信をなしたくて
。」「と笑うのは、銀行にお勤めを
らる。」「



ondon.」「つまり、そののです。」「
「これだ」とか、「これだ」とか、
「バイ・セ・ロン・ドン」(「From
m here, two London」)「って言
って、大きな声で」「」って言
たら、一板も切符を貰えなれま
す。」「



松田 公志

「めだか」でございます。

前略、その後お元気ですか。
 さらばとそろそろ雪が積もり始
 ることでしょう。京都でも雪
 降り初雪が舞いました。いよ
 々下宿生活の一番わびしい季節
 でありますね。電気ゴタツと酒

(S 45)

かたよりの一人住まい。この生活は年縋くのかと思うと、本当に嫌なります。それでも学生生活の中心はまだまだいい方で、II

に顔を会わす事もなく、時機が
次第に消息を聞くばかりで、今更
にながら四年という月日の事をさ
ささせられるこの頃です。

の頃にはよかつたなあ」と随分
しい話をしました。呂律の婢
の口調で昔を懐かしむ姿は、い
にも年寄りじみていて、貴君
は一喝されそうですが、やは
達にとつてはかけがえのない

考えてみれば、僕もAもそ
多分貴君も、卒業以来随分交
ましたね。高校時代でユー
を飲みながら話しあった僕達
の僕達――感傷でも郷愁でも

「それは決定的に変わっている。どうも、何よりも、自分の未来を見る見方、十年先への見方が変わったように思えます。かつては『僕の未来』というのは、随分確信した得たの知れないものでしたが、今では『僕たちの未来』という感じがする」

るのか全く判らない、ただ正
 しいか否かというところしか
 ない。それだけに、豊かな、可
 多岐多岐、未知なるが故の輝
 々とした未来だったと思ふので

今、僕達は、このレルの上を走つてゐる。Aと僕とが「やっぱり奴達せんか」と言ひあへるのも、絹織物のレルの上を走ることにかける連続されてないといふ事でしょう。未来は少なくとも昔比べて現裏の詰なです。

そして、かつて僕達、何ら具體的現裏の生來の枠組がなくなつたという事は、自由であつたと大きな特權であり、やむを得なくと思ふのであります。その自由と、今僕達が多少なりとも持つ現裏（明日への不安や焦燥）とを比べてみる時、「高校校の方が一生涯で生き判するよなあ」といふのも、何かきさした氣があるといふのも、もっとも、世間一般は一落百

察の自治をめぐる一運動であるかもしれない。警察などの考へずにはあませんから、實際晴しいではあるけれど、実際の高の頃、放課後がどれほど短かく思えたことが、夕方一人ぼっちの家へ帰るのが、どの程度疲れたことかと、背同じ方向へ帰る貴等が、誰かひとりと見えただものでした。」……

こう考えたら、Aと僕とが、酒飲むたびに腹巻締めて家敷集めのレコードをかけて大合唱するとき、もしくは這へるときで、育生活への憧憬を表れと言ふことができるのか。本心に賛成できません。

もうすぐ夜が来けす。相模原はず試験院でギキーンと音が

何
 統
 M
 彼
 出な君は見てゐてゐる。学生の僕
 達がこんなことを言ふのも、結局
 は高校の仕掛けの裏で、結構ま
 たらな奴がのしつゝしまふ。何か
 に憑かれたように一生懸命で
 いた。そして、皆間かきつゝ集ま
 つてしまつてゐる。
 だれも。 不斷の不機嫌のむく
 れてゐます。 何でもない。 来賓
 いでもと尋ねましょうか。 賢
 信村でスズキ君にするのを希望し
 みにしてゐます。
 では、また
 師走×日

○大兄
《編集後記》
従来の津島高次郎著々書には年配の方々の投稿が多く、若い者には筆力がなないの批判がありま

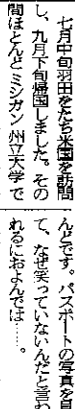
寮生活を送っていたらものと驚愕した。その批判となたる人達と今頃は軍卒の若い達、少佐、中尉、下士官、寮生活を送っていたと思う、今の慶達の生き方まで変つていないかもしれないと思ふです。貴は大学で寮生活を體驗しているだけに、さつと頷いてくれるでしょう。毎晩

のまづに鏡端に花が映る。なましの
 れない。時には先生を弄んでみて
 酒を飲む事もあったでしょう。又
 いと思います。
 (野村)

A black and white photograph showing a dark-colored car parked on a dirt path or road. A person is standing next to the car, partially visible. The background is filled with trees and foliage, suggesting a wooded or park-like setting. The image is grainy and has a high-contrast, somewhat somber tone.



津高教論 長瀬 信



るえそうになったものだったけど、ど、それがいつのまにか安らぎの場所となり、ドアをあけてあ

最近では薬店に行くこともな
ほとんどないし、ユーピーを飲
ながら議論をするということも
なくなったが、ユーピーは相変ら
ず好きで、ユーピーの言りと共に

つて、予時代のことが無性にな
かしくなることがある。

これは免けの癖みかもしれないが、高橋生の頃は成績が重視
されていたが、優秀生でないとな
るとなく居心地のよくないやうな
ころがある。卒業してからは、津
高の在学の方々に単に後輩とな
うたで親切に面倒をみていたやう
なたりしたし、それに今では津
と聞くが、縁が遠つても親しみを

つかしさを感ずるようになってはいるが、やはり学生時代というう失敗も多かったけれど、結果にきていた大学の頃が一番なつかしい。カウンセラーになるつもりで

脇谷和美 (S42)

に對して、非常にクルな受け方ををしてゐる人がある。政治に對する熱い胸算ざきびいりうである。ミシガハ州リントウランド・C. の庭園に花を咲かした。ワシントン・モニエウ、ト、リソカ、ソ、モニエ、ハ、ホ、イトハウス、を、そ、中、で、人、な、つ、こ、い、り、が、町、の、公、園、に、た、ま、さ、し、た、を、想、ひ、出、し、家、族、の、人、々、に、"ワシントン・C. は、た、ま、な、の、花、(squirrel)" は、あ、の、わ、い、の、欲、な、人、物、の、リスのことか、だ、ら、う、が、

「國旗の教養の益を欲し、人の建物公園はそこにおぼす先、整片、良田、木、三には必し國旗が立てられ、リカの野趣開始前は、選監督、同起立、三名の女性、ツチャマウンド近で國歌を中国版に教れられたのをまたりだ。」「うちもこのころ先父が亡び、大自然の中にのみのおく、おおかた氣持日を送っている彼には、不も、人種別々の深刻な問題もない、うな錯覚におひいてうよだ。」「写真良はデイトに招かれて」

う。じーの奇りと共にと奇く
ロマティックな感があるが
私自身、気分なり、早産候
集荷のの広告取りで、暑さと
れから和証券に「ベ」でと
大和銀行とひんぐ大実の
をたり、一生懸命に原稿が
になつてガッカリし、早産
で負け口惜しがたり、今思
出して顔が赤くなるのが多
出してロマティックなから
違ひのもあるが、それ故に
てなつかしいのかもね。

一 野中の清水
 ぬるけれど――
 磯 千秋 (S 43)
 (旧姓 田上)
 ふるさと入りと先づ心懐ひ
 道々今なり 磯あたら
 津高を卒業して昭和七年余
 雲共に放浪となつてまゐつた
 私の少女時代の心の風を造
 りだしてやうとの希望を
 抱いてゐた。でも、道程と母

(旧姓) 田上

た。学会では、私がお世話
になった英籍の杉浦徳次先生に
お目にかかりました。先生は現
甲南女子大学で英語学を教鞭を
つていらっしゃるが、私は一年
だけ教えたいたいただけなのに
記憶に残ったことがあったが、
私を離れた、しかもあのような
国の名集りの場でお会合する
は夢にも思いませんでした。

服部先生が言語学の権者で

昔とこの村かというが、こののちのメンツで戦を争う。

大会では在校時より腕を花売っている人が多いの噂が高い。

日本の女子チャンピオンになりつづける三重国体では、三重チームの主力となつて時折知子氏の石板（36年卒）三重（小森の）と名のなるをどろかす団体大活躍の河辺達幸（旧姓小森27年卒）は多の知るものと、社会人上役を連続するといふ松生兄弟（39年弟46年兄）三重興行シヤング上役を連続する平田（42年卒）半高（38年卒）高田（41年卒）栗妻田（大会開催の校皇座席の顧問）立場をかたむけを日夜している高尾（41年卒）とそれとを結ぶといふ白井、岩崎（47年）近藤（48年）このへん

わね、なだでも入会します。
役員は下記の通り選出されました。

会長 辻 直良（S30年卒）
副会長 駒田 正善（S30年卒）
タ 杉本 植宏（S32年卒）
会計 長谷川哲哉（S39年卒）
書記 朝井 憲生（S39年卒）

尚Q.B名簿不備のため連絡しれ
の方多数ございましてお詫
げします。会員名簿作成の為Q.B
の方は、下記までご連絡下さい。
尚四十年度、四十二年度以降の
名簿の提出が義務にて至急お
願います。

津波野寺町（四一〇）
TEL 二九八八九四
朝井 憲生宛
次回総会はS四十一年卒を幹事

るために、運動クラブのOB会であるから、縁会といっても、会費よりも、試合、プレーをすることを中心としてやっており、又言うに足りない、気のすまぬ連中もある。OB会がここまで広がれたのは、本吉に、運動、バスケ、テニス、ゴルフが好きな人達の集まりであるということに尽きるが、それにもまして、開關をしていないという中川先生の御尽力があることは、現役で援助をするということも、余命の重なる一項目ではあが、まだまだ社内に未熟な者ばかりだったので、何程のことでもよい。OB会では昔、律高バスケ部、テニス部、ゴルフ部、とを心にかけ、健闘を祈っているというので、今のと

今で七十五名を擁

をななり、今では千石を産出し
てゐる。合資会社加賀の二社
として、今も盛んな事業をして
ゐる。年代を重ねたつれ、大
先達の問では、「我がアレーを
」といふ娘生れ大人が、今では
親を頭張つてゐるは、吾を感
じなふや。」との言葉も出るや
うなである。しかし、同の現
役の定期戦では、またまた先頭
に立て走りまわる（はじめの五
分間のは、そして、人海戦術
をするので、不思議いつつもO
チームの勝ちである。そうなん

昨年の本誌上で「富蔵堂三千年史おののB会簿編」の宣言をしてから、早いもので、もう二年になります。では、その後の編纂の進捗の程は……となるかと残念ながら、殆ど全く進展していません。と言わねばなりません▼▼▼お叱りを受けそうですねが、この一年間に、編纂室に送られた連絡は、一通らずに、他、それといえるほどの津南新

昭和二十年頃であったと

卓球部のOB会をつくるというの
かも知れませんが三十名程が集って
いいのうちに会話しきものが
できた。これがそもものはじめ
と覚える。事業、目的、役員や
「卓友会」の名が生れたのは、
それから十年余りたってからのこ

大門口支店・津市大門口・松生堂
(一宛)
津高皇友会会長
藤岡文雄（23年卒）記
柔道部OB会
去る八月十日、津市の白牡町に
おいて、土居賢先生を招きして

云々……」と続けるのである。そしてそのあと二週間は、休みの節々がどうのこうの、という頻りになる。

また、わが津高クラブは、正式の登録クラブチームであり、種々の大会に参加する。以前には、三重県の一般及美濃岡の大会で、

ました。絶対数がこたねけでは
何も手がつけられませんが、一やっ
ているうちに「三十年」になる」
はずだったこの事業も、この調子
では四十年たつてもできないでじ
よう。最初の報告がこのような悲
しい報告となるのは誠に残念です
が、本事業は公後も継続する予定

と会員の卓球選手権大会を

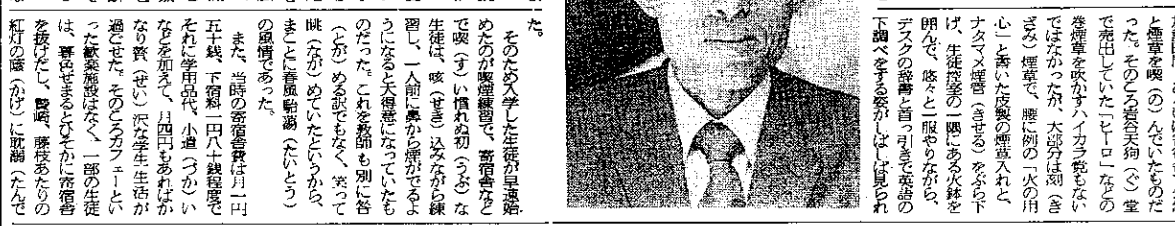
といる。この大会は男女の区別
く拙せんでダブルスを組みトー

部の充実、発展を目的としており
ます。会館は津高柔道部OBであ

ンバーにより、若手中心の時は優勝し、ベテラン中心の時は遠くな

何もしないままに卒業となりました。

真弓六一 (S17)

[illegible][illegible][illegible][illegible]

きする者もあったが、大部分は一杯一銭六厘のワシとか、五厘のぜんざいとか腹の欲求を満たし、娯楽といへば「百物語」といって夜更けから寄席の至に集まり「ラッパを消した真暗間(やみ)のなかで、闇の熱が狂徒をそれ、それ一席替へ、その後、近の目場まで交替で一人つづお掛け、目

この期になつて感觸再燃し、 教誨者梅原千与二、三人の救 が相談の結果、「今日の事來 ころを遠し。今の誤（はかり こ）を是は、まず誤識解散 ことを請求するに如（ごと）か らなかり、建築案を起草して 遊藝館の遊戯おもむいた。 また、「蘇芳の井は	十二 再び た。 長と 當 式 出を 事
--	---

認めるところではできぬとした
の結果、校長はじめ村瀬
梅原、小島、杉野、丘本、
島島の十人は、意欲が
たぬめとじ、さきの和順に反
し、再び辞表を提出するとし
てあつた。ところが、これに
は校長、伊原、岡崎、梅
島の五人は辞意を認めなが
ら、正式に辞表を提出する
が、杉野、島島、小島、
村瀬、丘本の五人は、
校長の訓示を聞き、
東郷、西郷、
に徘徊
たに革
に数種を
えの學
半熟の生
り、これ
に精良
れての御

の程(ほど)とし、南北
(はいかい)し、朝(あし)
に從い、夕(ゆうべ)
學び、揚々生煮(なまに)
す士となり、碌(ろく)々
先生たるもの、ひび皆しか
が父兄たるもの豈(あ)
に堪(た)うべけんや。こ

